

## 69. “不安な気持ち”は潜在意識に見抜かれている

不幸続きの人は、そのような運命を自分で引きつけているのです。

---

どんな不安も心に抱いた瞬間から願望になります。ある女性は過去三年の間に三人の男性と婚約をしましたが、一度も結婚できませんでした。なぜかと言うと、彼女は婚約をすると、その結婚がダメになる想像を始めていたからです。

彼女の最初の婚約者はまじめでおとなしい点はよかったのですが、母親の意見に振り回される弱さがありました。その結果、彼は彼女を望んでいたにもかかわらず、母親の意見で婚約破棄になってしまったのです。

そのことで深く心が傷ついた彼女は、結婚願望を満たすために、次々と新しい男と結婚の約束をしますが、その一方で「今度の結婚もまたダメになる」という想像を心の中でふくらませていたのです。

結婚妨害者が出てくるのではないかと心配し続けていると、潜在意識はそれを願望と受け取って現実化してしまいます。だから心配ばかりしている人ほど、その通りの「い現実」に直面しています。

なぜなら、それはその人自身が望んだことなのです。自分では「そんなことを望んだつもりはない」と思うでしょうが、潜在意識はそうは受け取っていません。前述の女性も顕在意識では結婚の成就を願っていました。

けれど最初の宥楯の失敗の衝撃が尾を引いていて、彼女は自分の括楯をいつも心配し長けていたのです。心配は正当に見えますが、正当であることは、心配をすることの理由にはなりません。

なぜなら、私たちはつねに別の考え方、見方をする自由を与えられています。実際、同じ状況にあっても、すべての人間が彼女と同じような心の恵庭をとるとは限りません。なかには、そうした妨害にも負けずに何度も期待を措く人もいることでしょう。

マーフィー博士はこう言っています。

「心配をすることは、その内容を自分に引きつけることなのです」

自分が望まないものを一生懸命に引きつけようとする……それが不安や心配の実体です。不安や心配が襲ってきたら、「自分はそのような現実は望まない」とはっきり心に宣言すべきです。